

## 「逃げ遅れゼロ」を目指した 洪水時のリスクコミュニケーションに関する研究

洪水時における「逃げ遅れゼロ」を実現するために、平常時や緊急時に効果的に洪水に関する情報を共有する「洪水情報ポータルサイト」や、洪水時の住民の行動心理を考慮した「防災アプリ」や洪水疑似体験ツールなどのリスクコミュニケーションツールの開発を行い、行政による防災・減災の取り組みや住民の早期避難を支援します。

### ☆背景

洪水が発生しそうな際には、気象官署・河川管理者・市町村から、**ウェブサイト**や**電子メール**等で一般住民へ**様々な洪水情報が提供されている**。それにもかかわらず、40名以上が犠牲となった2017年九州北部豪雨災害、常総市で4,000人以上が救助された2015年9月関東・東北豪雨など、**未だに多くの死者・行方不明者・逃げ遅れ者を出す災害が頻発**している。

### ☆目的

行政による洪水情報提供が避難行動につながらない**ケースでは、次の課題**があると考えられる。

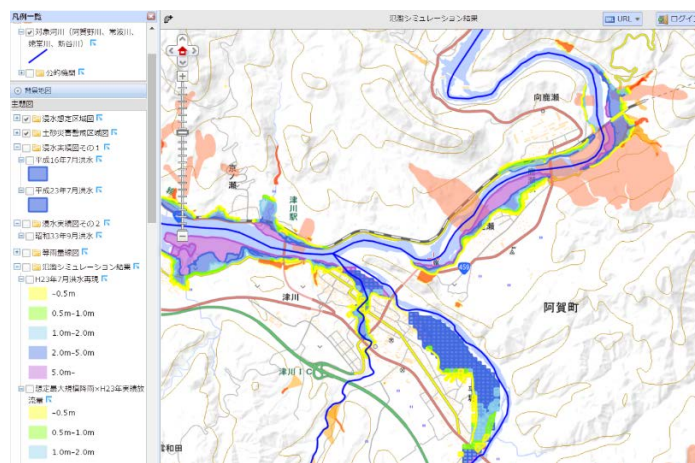
- ① **洪水情報の内容や伝達方法における課題**...住民に洪水情報を伝える手段が整っていない、いざという時にうまく伝わっていない、伝わっていても住民に情報の意味が理解されていない など
- ② **住民による避難行動における課題**...住民は未経験の洪水リスクを過小評価する傾向にある、避難・減災活動を行うのに消極的になりがちであること など

これらを克服するために、行政や住民が平常時や緊急時に、情報の内容を理解し行動につなげることが出来る**洪水リスク情報のコミュニケーションツールを開発し、行政による効果的な防災・減災の取り組みや住民の早期避難を支援**する。

### ☆研究内容

①に関連し、必要な洪水情報を効果的に一つの画面で共有できる「**洪水情報ポータルサイト**」の開発を行う。これにより、平常時の**効果的な防災意識啓発活動**や、緊急時における**リアルタイム情報**や現地で撮影された**危険情報**、さらに**浸水に関する情報**など様々な情報を、行政と住民が共有できる。

②に関連し、住民が災害時に現行の災害情報をどのように認識し、防災・減災行動を行っているか(いないのか)、**行動心理に着目して分析**を行う。これにより、既存の情報提供方法や情報内容の課題を検証して新たな情報の必要性や提供可能性を整理する。それらを踏まえ、平常時・緊急時に活用できる**防災アプリ**、VRゴーグルやロボットスーツなどを活用した**氾濫疑似体験ツール**などの開発を行う。



開発中の災害ポータルサイト  
(基幹システムは、防災科学技術研究所が開発した「eコミュニティ・プラットフォーム」を活用)



氾濫疑似体験のイメージ

### ☆その他

- 研究期間 H30年度～H34年度
- 問い合わせ先 水災害研究グループ 徳永  
Tel: 029-879-6809